

1. 北海道 (Hokkaido)

作成者: 川田光政¹⁾; 協力者: 寒沢正明

作成日付: 2003年4月

今回 ランク	判定 方法	前回 ランク	種 名	現在も安定して発生している 産地 (市町村)	現在減少傾向にある産地 (市町村)	絶滅したと考えられる産地 (市町村)	衰退の経過	減少要因	備考(対策・文献など)
EX	ウ	E	テングチョウ			札幌市, 日高町, 夕張市, 函館市, 上ノ国町(目撃)	札幌市円山など(1930年~1972年まで記録あり), 日高町岩内(1946年3月), 夕張市(1930年代の記録), 函館市(1936年頃1頭), 上ノ国町(1978年, 1983年2例の目撃), 2001年8月19日大成町平浜1(坪内純)が道内29年ぶりの記録	不明	2001年に29年ぶりに道内記録がたが, その後の追加記録無し. 迷蝶の可能性もある(jezoensis No.28,p.1)
EN	オ, シ ソ, ツ		キタテハ	桧山支庁乙部町		渡島, 桧山, 胆振, 日高, 空知の各支庁の記録があったほとんどの産地	道南では1950年~1960年代にかけ, 平地に普通に見られた. 1980年代に入りほとんどの産地で絶滅したようで, 現在見られるのは乙部町の一部に限られる	生息地が人家付近に限られていたせいか, 宅地開発や食草のカナムグラの減少・消滅等が考えられる. 近年の温暖化で増えるような蝶ではない	乙部町に残された産地は畑, 墓地, 荒地で, 現状を保つ以外にない. カナムグラにはトゲがあり嫌われるため, 刈られる傾向にある. 食草の保護が必要
EN	ク, ツ	R	ヒメチャマダラセセリ		日高支庁様似町アバイ岳		1973年の発見後, 1975年には天然記念物に指定され保護されている. 発生地は狭い.	産地ではカメラまで設置して保護している. 密猟も確かに減少の原因の一つと考えられるが, 近年の登山ブームによる登山者の増加と, 吸蜜植物であるアズマギクの盗掘も大きな要因と思われる	発生地の狭いことは保護のし易さにはなる. しかし, 採集者をしめ出しながら, 登山者が狭い山にひしめく様子は, 植物にも昆虫にも悪影響を与えている
VU	タ	V	ヒメシロチョウ		渡島, 胆振, 日高, 石狩, 十勝の各支庁(分布するすべての支庁)		太平洋側を中心に, 平地~丘陵地にかけて局地的に分布していたが, 近年は各地で見られなくなりつつある	生息地である道路, 鉄道沿いや, 人手の加わった草原の環境が変化し, 姿を消したのと思われる. エゾヒメシロチョウと比して環境の変化に弱いと思われる	山中には見られず, 人間の生活環境に近いところが生息地になっている. 人手の加わった環境を維持してゆく必要がある
VU	ス, タ	V	カラフトヒョウモン		全道的		ヒメギフチョウと似た分布を示す. 1970年~1980年代にかけては, 森林がオープンランド化され普通に見られたが, 近年著しく減少している	丘陵地帯~山地の明るい環境を好む. 生息環境の荒廃が主な原因. 林業管理形態の変化により, 植林地などの更新がなされなくなった. 以前珍しかったホソバヒョウモンは, 逆に増加している	山地帯の明るい林道沿いなどが主な発生地になっている. 丘陵地~低山地での産地では人手を入れた維持・管理が必要である
VU	ス, タ	R	ゴマダラチョウ	桧山支庁上ノ国町	石狩支庁(奥尻町), 空知支庁(長沼町, 由仁町, 夕張市)	石狩支庁(札幌市, 浜益村), 後志支庁(小樽市, 仁木町, 余市町, 古平町)	エゾエノキを食樹としているオオムラサキと同所的に生息していた道央では, 現在ではほとんど見られない. 多産地として知られた札幌市円山では, 1980年代後半までの記録はあるが, 以後採集記録はない	道央では同所的に分布するオオムラサキは少ないながらも残っているが, ゴマダラチョウのみ消滅する傾向がある	食樹を含む, 広い生息環境の保護が必要
VU	ス, タ	R	オオムラサキ	石狩支庁札幌市(八剣山)	石狩支庁札幌市(円山, 藻岩山), 後志支庁(小樽市, 仁木町, 余市町, 古平町), 空知支庁(栗山町, 長沼町, 由仁町)	石狩支庁(浜益村), 空知支庁(砂川市(1のみ?))	1980年には各地で大発生したが, 以降1990年代始め頃までは各地で採集されていた. その後, 多産地であった札幌の産地でも, 八剣山以外ではほとんど見られなくなった	ゴマダラチョウと比べて, より適応力強いと思われるが, 近年の減少は気になる. 札幌市藻岩山では食樹付近の公園整備(5~6年前)後に, 激減している. 直接の原因は不明	食樹を含む, 広い生息環境の保護が必要. 年による発生量に変化がある
VU	タ, テ	V	ミヤマカラスシジミ		渡島支庁(松前町, 知内町, 函館市, 七飯町, 砂原町, 森町, 八雲町), 桧山支庁(江差町, 乙部町, 上ノ国町)		渡島半島のみ分布し, 開発等により消滅した	生息環境の荒廃が主な原因だが, 食樹であるエゾノクロウメドキ自体, 環境の変化に弱い	成虫は食樹からほとんど離れないことから, 生息環境と食樹の保護が必要
VU, 西部 地区はEN	カ, タ, テ	E	アサマシジミ	十勝, 釧路, 根室支庁の一部	胆振支庁(苫小牧市, 早来町), 網走支庁(遠軽町, 瀬上町, 丸瀬布町, 湧別町)	石狩支庁(札幌市, 千歳市), 留萌市, 深川市, 北見市, 緑ヶ丘	札幌市では20世紀初めに絶滅. 千歳市でも1980年代以降記録無し. 胆振で最後まで残っていた早来町でも1990年代の終わりから記録がなく, 絶滅が心配される. 網走支庁でも遠軽町の産地以外ではほとんど記録がなく, 2001年の滝上町での記録が最新の記録	生息環境である乾燥草原, 火山灰台地草原の遷移に対応できなかったためと思われる. 生息地の分断により, 分布拡大ができなかったと考えられる	北海道西部地域での本種は, ほぼ絶滅してしまった. 十勝東部~釧路・根室でも, 産地の規模や個体数の減少が急速に進んでいる. 道内での分布は, 昆虫と自然20(5)1985に記してある
NT	キ, ト	E	ヒメギフチョウ	空知支庁北部, 上川支庁, 宗谷支庁南部, 網走支庁	日高支庁(平取町, 門別町, 新冠町, 静内町, 三石町, 浦河町), 空知支庁南部(夕張市, 三笠市, 栗山町), 石狩支庁(当別町, 厚田村)		1970年~1980年代にかけては個体数も多かったが, 1980年代後半から減少傾向にある	生息環境の荒廃, 林業管理形態の変化で, 雑木林の更新がなされなくなった. 日高支庁は雪が少なく生息に適した環境が少ない. 牧場化などによりさらに乾燥化が進み, 急速に減少	公園, 遊歩道など適度に人手が入っている場所が好発生地になっているケースも多く, 発生地の手入れが生息条件になっている
NT	チ, ト		カラフトルリシジミ	大雪山系, 日高山系, 知床山系のいわゆる高山帯	根室支庁(根室市, 別海町), 天塩岳, 然別湖周辺		根室半島の高層湿原には多くの産地があったが, 開発され消失した場所も多い. 種指定の天然記念物であるため, 産地も発表できず, 保護も積極的にできていない	高山帯の生息地は安定しているところが多いが, 近年登山者の増加による影響も大きい. 天塩岳では山火事の影響があるといわれている. 然別湖では観光開発, 道東の低地帯の産地では開発により減少している	種指定の天然記念物であることが問題である. この種の場合, 地域指定こそが望ましく, すみやかに変更すべきである. 発表ができず, 開発の歯止めにもならないのであれば, 意味がない
NT	セ, チ	R	ダイミョウセセリ		桧山支庁(熊石町, 乙部町, 江差町, 上ノ国町, 松前町)	渡島支庁(八雲町)	渡島半島にのみ分布し, 桧山支庁に産地が集中している. どの産地でも個体数が少なく, 近年の環境悪化でさらに個体数は減少している. 渡島支庁では, 1961年に採集されて以来記録なし	生息地が人里にあり, 開発の影響を受けやすい	発生地が人里の畑地, 墓地, 海岸段丘などで, 現状の環境維持が必要

1) 〒064-0915 北海道札幌市中央区南15条西15丁目1-15